

Apr-July 2014  
Volume 5, Issue 2

# 和 Central Harmony

Quarterly Newsletter of Central Japanese-American Community Church of SDA



*Fun Games!*



*Egg Hunting!*



*Easter Social!*



**Address:**  
2113 East Villa Street  
Pasadena, CA 91107

**Phone:**  
(626) 304-7800

**Questions/Comments:**  
[harmony@centraljapanese.org](mailto:harmony@centraljapanese.org)

**PR/Communication Staff:**  
Keiko Takeda  
Mika Aoki  
Miwako Yamamoto

**Contributing Writers:**  
Pastor Yamaji  
Yukio Hattori  
Dennis Hokama

We're on the Web!  
See us at:

[www.centraljapanese.org](http://www.centraljapanese.org)

## 「キリストへの道」

エレン・ホワイトによる『キリストへの道』を読むと、私たちがいかに神さまについて大きな誤解をしているかがよく分かります。神さまは、この世界の始めから終わりに至るまで、全く変わることなく私たちが愛しておられ、私たちが救うためなら、ご自分のいのちを引き替えにしてもよいと思ったださるお方です。そのような素晴らしい愛の神さまを、私たちはまるで「恐ろしい方」「残酷で人を決してゆるさない方」のように思い込んでしまいました。

実は私たちにそのように思わせているのは、他にもないキリストの敵、悪魔なのです。その悪魔は、もう一つの大きなうそで私たちが攻撃しています。

「わたしたちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵から逃れることはできません。またわたしたち悪い心を変えることもできないのです。」

時々私たちは自分で自分の醜い性質や弱さを克服しようとする誘惑に駆られますが、ここに書かれているとおり、そんなことは出来ないのです。それでは、私たち人間の心を変えることが出来るのは一体誰なのでしょう。私たちが変わることが出来るとしたら、何によってそれは可能なのでしょうか。

「キリストの恵みだけが人の力のない魂を生きかえらせて、これを神ときよきに導くことができます。」

エレン・ホワイトは、さらに厳しいことを書いています。

「人は生まれながらに持っている良いところをのばせばよいという考えは恐ろしい誤りです。」

今日の一般的な教育論では、子供たちが生まれながらに持っている良いところや能力を伸ばすことが重要だと説きます。仏教的な人間性善説の背景を持つ日本人にとっては、このような教育論は、大変受け入れやすいものだと言えるでしょう。

しかし、聖書の教える人間の本当の姿とは、生まれながらにして罪人であり、自分の力でその罪の束縛から抜け出す力も持っていない惨めなものなのです。この惨めな姿から救われ、罪という問題から解

放されるためには、自分の力ではなく、自分以外の力、すなわち救い主の力に頼らなければならないのです。

悪魔は、この大切なことを私たちが気付くことを、なんとかして妨害しようとしています。そして、まるで私たちが自分自身の中に、自分の心を変える力があるかのように思わせたり、自分自身の中に生まれながらにして、私たちが救う良いものを持っているかのように思わせようとしているのです。しかし、このような嘘にだまされてはいけません。

「人はただ、神の愛といつくしみ、また、父親のようなやさしさを悟っただけでは十分ではありません。」

私たちは、悪魔の偽りによって私たちの目から隠されている神さまの本当のお姿について明らかに知る必要があります。すなわち、父なる神さまが、私たち一人一人を心から愛しておられる、と言う真理が明らかにされなければなりません。

しかし、悪魔のもう一つの大きな偽りによって私たちに隠されている、私たち自身の本当の姿についてもはっきりと気付かなければならないのです。すなわち、私たちはこのままでは滅んでしまうしかない、罪深い存在であること、さらには、自分自身でそのような状態から抜け出す力を持っていない、ということについてです。

神さまの本当のお姿を知り、私たちが愛されていることを知ったとしても、もし自分の本当の姿に気付かず、自分の抱えている問題を自覚しなければ、私たちは救い主の必要を認めないでしょう。また逆に、もし私たちが自分の弱さに気づき、その弱さを克服する力が自分がないことを知ったとしても、神さまを恐ろしいお方であるかのように誤解し続けていたならば、やはり救い主の元へたどり着くことはできないでしょう。

悪魔はこのことをよく知っています。ですから、私たちがこれらの二つの大きな偽りのうちの、少なくともどちらか一方によってだまされることを期待しているのです。しかし、キリストは十字架によって、私たちの目の前に「真理」（本当のこと）をはっきりとお示しく下さいました。

「人間は神に背いて自ら神に遠ざかり、ついに地は天から切り離されてしまいました。このだれも渡る

「ことができない深い淵を再びつないで地と天と結びつけてくださったのはキリストです。」

人間には絶対にできないことを、神さまはキリストによって成し遂げてくださいました。それは、罪によって切り離された天と地を、再び結びつけるということです。人となられた神であるキリスト以外にこれを成し遂げることのできるお方はいません。

「神へのただ一つの道はキリストです。」

### “Steps to Christ”

Whenever I read “Steps to Christ” by Ellen White, it makes me realize how much we misunderstand God. From the world's beginning to its end, God loves us without change at all. In fact in order to save us, He didn't spare His own life. We consider such wonderful loving God as “terrifying God” or “Cruel and would never forgive people”.

Actually what drives us to think like this is Christ's enemy, Satan. He keeps attacking us with another BIG deceit.

“It is impossible for us, of ourselves, to escape from the pit of sin which we are sunken. Our hearts are evil, and we cannot change them.”

Sometimes we feel compelled to overcome our ugly tendencies or weaknesses but as described here, we cannot do that. Then, who really can change our human hearts? If we can be changed, what make it possible?

“His grace alone can quicken the lifeless faculties of the soul, and attract it to God, to holiness”

Ellen White says in an even more stern tone of voice.

“The idea that it is necessary only to develop the good that exists in man by nature, is a fatal deception.”

According to today's theory of education, it is said to be important for children to improve their natural strengths and talents. This theory can be very easily accepted by Japanese people, who have the Buddhist view of human nature as fundamentally good (Seizen-setsu, 性善説).

that we were bon sinners and miserable that we even don't have the ability to escape from the bondage of sin. In order to be saved from this bleak fate and to be freed from sin, we have to rely on the power other than ourselves, the power of our Savior, the Lord.

Satan is doing whatever it takes to distract us from such an important thing. And he deceives us to think as if we had the ability to change our hearts or we were born with good things to save ourselves. But don't be taken in by these lies.

“It is not enough to perceive the loving-kindness of God, to see the benevolence, the fatherly tenderness, of His character.”

We need to see God's true form clearly, which is hidden from our eyes by Satan's big lie. In other words, the truth —our Heavenly Father loves each one of us so much — has to be revealed.

And we have to realize, because of Satan's another big lie, our true forms are also hidden to us. In short, we would be merely perished and sinful and we don't have the power to get away from such state by our own strengths.

Even we would see God's true form and realize that we are loved, if we are neither aware of our true nature nor problems we have, we wouldn't admit our need of a Savior. Or on the contrary, even we are aware of our weaknesses and realize that we don't have the power to overcome them yet if we keep misunderstanding God as terrifying One, we cannot reach out to the Savior, either.

Satan knows that well. Thus, he anticipates that we would be tricked by either at least one of these big two lies. However, Christ clearly revealed “Truth (real things)” at the Cross in front of our eyes.

“In the apostasy, man alienated himself from God; earth was cut off from heaven. Across the gulf that lay between, there could be no communion. But through Christ, earth is again linked with heaven.”

By Christ, God has accomplished what mankind can never do. That's linking heaven and earth again which had been cut off by sin. No one else but God, Christ who became a man can accomplish this.

“And the only way to God is Christ.”



私は2007年に大腸がんを患いました。大腸の検査で小腸と大腸をつなぐ管の中で、癌が見つかったのです。大里先生に依れば「この場所は症例も無いほど皆無に近いところで、検査で見落とされても不思議でない場所でした。ところがその時はカメラが近づくとその管が開き、腫れ物が飛び出てくるように見えたので、生体組織を採取して検査したらガンと判明しました」と説明を受けました。先生は、「腫れ物が飛び出てくるなんて奇跡です。神様の導きとしか考えられない。」とおっしゃって、御自分の自宅でのキリスト教の集まりに出る事を勧めてくださいました。素直に出席はしたものの、私の屁理屈を云う態度と頑固さを察しされたのか、「あなたに良い先生がいます。」と中村牧師を紹介して下さいました。中村先生の下で聖書の勉強をして一年ほどした時、神の存在を強く感じ出して、もっと知りたくって洗礼を受けたのです。このように大腸がんを患った事で、私はキリスト教に導かれるきっかけを作ってくれたださったと思えるのです。これが私の信仰の始まりでした。

聖書研究を続けるうちに、何時しか「神様は総てを御存知で、我々一人一人の髪の毛の数まで知っておられ、それぞれの人のベストになるように、計画されている。」との教えが、私の心の底に根付き、何かが起きると「このことを通じて、神様は私に何を気付かせ、伝えようとしているのか」と考えるようになっていたのです。そこで、今回の私の胃全摘手術を通じて、結果的に”ラッキー”と云う表現では綴られない体験をした事を申し上げたいと思うのです。開腹手術は確かに体には大きな負担でしたが、驚く事に其れを上回る嬉しい出来事が、たくさん起こったのです。

この体験をあなたならどの様に受け取りますか？

私はここ2、3年の間、逆流性食道炎のため、時に胸焼けの症状か胃の位置の裏側にあたる背中の中が重い気持ちになることがありました。定期検査のためにDr.大里を訪ねたとき、「胃カメラの定期検査を1年前に受けて何でも無かったので、今回はパスして大丈夫でしょう」と言われたのですが、何故か先生にお願いして胃カメラ検査を受けたのです。そして食道に近い胃の上部に、進行癌が発見されたのでした。胃ガン宣告を受けた時も、「手術を受けて、ガンを取れば良いんだ」と、薬を飲むような単純な気持ちで、受け取ったのです。手術そして術後の生活はどんなものかと、深く考える事もなくなりました。

”私には何も出来ません。神様あなたにお任せします。”と神様にお祈りし、身をお任せしますと、不思議と何の恐れも不安もなく、本当にいつも通りの平常心で居られました。ぐっすり毎晩寝られたのも明るく笑顔で過せたのも其の証拠です。

”神様は、このことで私に何を悟らせようとしてしているのかな”と勿論疑問は残りました。当初は手術をUCIで受ける心づもりでしたので、それに備えての幾つかの精密検査を受け、その検査結果が出揃って、診断は進行ガンステージ3の初期と下されたのです。手術は早く受けないと取り返しのつかない事になると思いました。

そんな折、日頃はゴルフ仲間でも個人的にも親しいDr.萩池が、タイミングよく日本からトーレンスに主張で来てました。セコンドオピニオンを聞こうと其の検査結果を見せると、彼が消化器科学会用に作ったビデオを使って、手術方法に関するいろいろな事を説明して下さいました。説明を受けるうちに、彼は手術の経験豊富な優秀な胃腸外科医であることが判明したのです。

其ればかりか、アメリカでは、”医療審査結果に基づいて、ギリギリの所を切り取り、化学療法で再発を食い止める”のと日本では”検査結果より一つ大きく取る”という胃がん手術の対処の違い、そして日本での胃がんの発生比率が多い事から、手術件数、症例、研究開発で世界のトップ医療機関になっていて、手術5年後の生存率を比べると明らかでアメリカ50%に対し日本90%で充分理解できたのです。加えてDr.萩池は御自身長年の研究から従来の小腸を使って代替胃をつくる手法を改善した胃がん手術の手法を編み出し、其の手法でもってたくさんのお患者さんは、術後障害が極端に少なく、食事摂取量も従来の方式よりも多く取れている事も解りました。私は、即Dr.萩池に執刀して頂きたいと申し出て、その場で承諾をもらい、2月13日に日本での手術日が決まったのです。それは1月20日頃です。何の準備もしてなく、しかも日本行きです。日本内での手続きも考え、あわてて2月4日発の日本行きの航空券を手に入れました。出発までの間、ガタガタ、バタバタしてましたが、一方たくさんの方々の教会の方々から、手術が上手くいくようにお祈りして下さるとのメッセージが伝えられてきました。そして私は、”きっと祈りは聴かれ神様から守もっていただける。”と素直に信じられました。教会の皆様の気持ちが、とても嬉しかったですね。

(次号に続きます)



This is how my Christian faith started. As our Bible study continued, I learned and believed that God knows everything about us and he has the best plan for each one of us. I started to think that when anything happens, God may be trying to tell me something through the experience.

I'd like to share what I have experienced this time around when I was diagnosed with stomach cancer and went through the total gastrectomy. The surgery put, in fact, a lot of physical burden on my body but there were a lot of amazing things that happened in the process. How do you think you would process such an experience?

For the past 2-3 years or so, due to regurgitant esophagitis I sometimes experienced heartburn and discomfort in the back of my stomach. When I was at Dr. Osato's office for periodic check up, Dr. Osato initially said that I could skip the endoscopy this time since I had the procedure done the year before and the results were normal. For some reason, I felt that I needed the procedure so I requested it. As a result, cancer was discovered in the upper part of the stomach near the esophagus.

I took this information rather lightly. I was thinking that I could just have a surgery to remove the cancer. I didn't think about how my life would change after the surgery. I prayed "I cannot do anything and I will leave everything in Your hands, God". I felt at peace and spent everyday the same as before I was diagnosed. I did wonder, however, what God was trying to tell me through this experience.

Initially, I was going to have the surgery at UCI. I had additional tests in preparation for surgery and the test revealed that my cancer was had just advanced to stage 3. I thought that meant I would have to get the surgery immediately. It was around this is time, that my golf friend, Dr. Hagiike, came to visit Torrance for business. I received a second opinion on my condition from him. I learned then that he happened to be a very experienced surgeon who specializes in Gastroenterology and explained in detail various treatment options.

He explained that typically surgery in America removes what's least necessary based on test results, whereas in Japan, they remove more than what that test may indicate for removal. Also, he talked about how there are many cases of stomach cancer in Japan; hence, their management of this condition is at the top level in the world. I found out that survival rates after 5 years from surgery is at 90% in Japan whereas the percentage is only 50% in America. In addition, I learned that Dr. Hagiike has improved the usual surgical procedure based on his lengthy research which resulted in reduction of post surgical complications and improvement in post surgical food intake.

I asked Dr. Hagiike to perform the surgery immediately and February 13 was set as the date. This all came about around January 20th. I hurriedly purchased my airplane ticket to Japan. I was to leave to Japan on February 4th. It was very busy and hectic-but I received many supportive messages from church members during that time. They were all praying for a successful surgery outcome and I truly believed that these prayers would be heard and God would protect me. I was really touched by church member's messages and prayers.

*(to be continued in next issue)*

*Reflections on the Life of Mrs. Winifred Oshita and the Tumultuous Times in Which She Lived (Shorter Version)*

Mrs. Winifred Oshita, widow of Elder Hideo Oshita, and former 5<sup>th</sup> grade teacher and long time Elementary Principal at San Gabriel Academy Elementary, passed away on December 15, 2013 at the age of 97. Her memorial service was held at the White Memorial Church on February 16, 2014. Despite the fact that she had been retired for about 29 years, and had been in fragile health for the last 9 years, her service was well attended by her former students and colleagues, as well as friends and associates from all across the country.

### The Beginnings

Winifred Sachiko Nakamoto was born on April 9, 1916 to a second-generation (“nisei”) Japanese-American family in Hilo, Hawaii, as the eldest of five sisters and one brother. After she had completed junior high, the family moved to Paia, Maui. Her life changed the day she attended a religious meeting being held in her uncle Kobayashi’s theater. When Winifred noticed that they needed a piano player, she offered to play for them. It turned out to be an evangelistic series being conducted by Seventh-day Adventists, and Winifred ended up playing throughout the whole series of meetings. Soon after that, Elder Frank Hartwick, the SDA missionary assigned to Maui, Hawaii, asked if she would be interested in taking Bible studies. Winifred accepted and shortly afterward, she and her sister Evelyn were baptized. She enrolled in PUC in 1934, and worked her way through college, eventually becoming the student manager of the cafeteria.

### Her Teaching Career and Beyond

In 1938 she graduated from PUC, majoring in Home Economics and Anatomy & Physiology. Returning to Hawaii she became an elementary teacher, teaching grades 1-8 in a one-room school in Kapaa, Kauai. In 1940, she married Hideo Oshita, a minister and fellow PUC graduate. Over the next three years (41-44), all three of their children; Gordon, Joanne and Roy; were born in Kekaha, Kauai.

In 1946, an urgent call came from Honolulu for Hideo to pastor the Japanese church and for both of them to teach at Hawaiian Mission Academy. The Japanese church was then in great turmoil because of the ugly circumstances under which the previous pastor, Elder Shohei Miyake had been forced out. In retrospect, these difficult circumstances would cast a long shadow over the

Japanese work in Hawaii and then the mainland as the Oshitas and the WWII era Hawaii Japanese SDAs began to leave the Islands for educational and professional reasons. (to be continued)

2013年12月15日ミセスウィニフレッド・大下が97歳でお亡くなりになりました。ミセス大下は、長老ヒデオ・大下の未亡人であり、サン・ゲブル・アカデミー小学校の校長と5年性の担任を長い間勤めていました。彼女の追悼式は、2014年2月16日にホワイトメモリアル教会で行われました。ミセス大下は、最期の9年間健康状態が不安定で、約29年も前に引退したにもかかわらず、追悼式には、教え子や同僚の先生たち、友人、知人など沢山の人がアメリカ全土から集まりました。

### 初期

ウィニフレッド・幸子・中本は、1916年4月9日、ハワイのヒロに住む日系人家族の二世である5人兄弟の長女として生まれました。彼女が中学を終えて後、家族はマウイ島にあるパイアへと移り住みました。叔父の小林氏の劇場で行われていた宗教のミーティングへ参加するようになり、彼女の人生は大きく変わりました。その会合にピアノ奏者が必要だと気付くと、ウィニフレッドはそれを引き受けました。それは、セブンスデー・アドベントリストの指揮する福音伝道のシリーズだったので。ウィニフレッドは結局、そのミーティングの全てのシリーズを弾く事になりました。その後すぐ、ハワイのマウイ島地域の伝道を担うSDA牧師のフランク・ハートウィックはウィニフレッドに聖書研究を受けることに興味がないかを訪ねました。ウィニフレッドはそれを受け、そののち彼女と妹のエヴェリンは洗礼を受けました。1934年にウィニフレッドはPUCに入学し、大学在学中ずっと働き、カフェテリアの学生マネージャーになりました。

### 教師生活とその後

1938年ウィニフレッドはPUCを家政科と解剖学、生理学の学科を卒業しました。その後彼女はハワイに戻り、カウアイ島のカパにある1年から8年生が一つの教室で学ぶ小学校の先生になりました。1940年、ウィニフレッドは、PUC卒業生の牧師ヒデオ・大下と結婚しました。その後の3年間(1941年-1944年)カウアイ島ケカハにて3人の子供達、ゴードン、ジョアン、ロイが生まれました。1946年、ホノルルからの緊急連絡により、ヒデオは日本教会の牧師とハワイアン・ミッション・アカデミーの教師に、ウィニフレッドもその学校の教師になりました。その日本人教会は、前任の牧師ショウヘイ・三宅が解任され険悪で困難な状況に陥っていました。追想すると、これらの困難な状況は、ハワイやその後アメリカ本土、大下夫妻や第二次世界大戦時代のハワイの日系SDAが教育や職業的理由でハワイを離れ働く日本人の上に長い陰を投じました。(次号に続きます)

## ANNOUNCEMENTS

---

### Keiro Nursing Home Visit

Saturday, June 14 from 3:00-3:45pm  
Keiro Nursing Home, 2221 Lincoln Park Ave, LA 90031

### インターネットで献金ができます! ONLINE GIVING IS AVAILABLE!

Tithe and donate to your ministry of choice by using your Visa, Mastercard, Discover, or Debit Card. Please visit our website at [www.centraljapanese.org](http://www.centraljapanese.org) and click the "TITHE AND DONATE ONLINE" tab.

#### Weekly/Monthly/Quarterly Events

- |   |                |
|---|----------------|
| * Japanese Language Ukulele Group         | Tues 10am-11am |
| * Japanese Language Bible Studies         | Tues 11am-12pm |
| * Japanese Language Prayer Meeting        | Wed 10am       |
| * Total Life Seminar (Japanese Language)  | Thu 10am-2pm   |
| * Family Fun Night                        | Monthly        |
| * Women's Ministry                        | Quarterly      |
| * Oil Change Ministry (Japanese Outreach) | Quarterly      |

If you would like to be added to our email list for announcements and updates, please contact Melissa at [news@centraljapanese.org](mailto:news@centraljapanese.org).

この教会のイベント情報などを e-メールでお送りしています。ご希望の方は以下のアドレスからメリッサ外間まで [news@centraljapanese.org](mailto:news@centraljapanese.org).



Central Japanese-American Community Church of SDA  
2113 East Villa Street  
Pasadena, CA 91107

---

日本人コミュニティー中央教会

visit us at our website:

[www.centraljapanese.org](http://www.centraljapanese.org)

---